

水素経済（Suiso Economy）

～オーストラリアと日本のサプライチェーン～ 閉会挨拶

小田原副大臣御挨拶

呼びかけ・今次セミナーの振り返り

発言の機会をいただき、大変光栄に思います。

本セミナーでは、水素を未来の脱炭素社会のエネルギーの要とすべく、政策及び技術分野の優れた専門家が一同に集い、その実現に向け非常に充実した議論が行われたと考えます。特に脱炭素社会の実現を支える分野で著名な吉野博士とフィンケル博士との対談には、大変感銘を受けました。

登壇者の皆様を始めとして、本セミナーを主催したアジアリンク、開催にご協力頂いたメルボルン大学エネルギー研究所、ビクトリア州政府、豪連邦政府、そして、水素バリューチェーン推進協議会の皆様に厚く御礼申し上げます。

エネルギー安全保障と水素

ロシアによるウクライナ侵略を受けたエネルギー市場の不安定化は、エネルギー安全保障が人々の平穏な生活に不可欠であること、また時に脆いということを改めて想起させることとなりました。

この最中であって、エネルギー安全保障を確保する上での水素の有用性が改めて注目されます。水素は、基本的には製造する場所を選ばないことから、特定の地域へ供給を依存する必要がなく、またそれ自体が再生可能であることから、枯渇せず、さらには環境負荷もありません。これらの特性は、水素が脱炭素化とエネルギー安全保障を両立するための課題解決に極めて有望なエネルギー源であることを示しています。

水素は、現実的なエネルギー転換を志向する日豪が協力して、その活用と強靱なサプライチェーンの構築に向け世界をリードすべき分野であると考えます。

「アジア太平洋水素サプライチェーン」の青写真

かように有望なエネルギー源でありながら、水素を社会の隅々にまで行き渡らせるためのサプライチェーンは、未だ確立していません。

我が国は、この全てのパーツで優れた技術を有しています。例えば、「つくる」では、褐炭から水素を取り出すガス化炉や、水から水素を製造する電解装置、「はこぶ」では、LNG に比べ 100℃も低い-253℃という超低温状態を長期間保つ必要がある液化水素の運搬を可能とする断熱技術、そして「つかう」では、「ミライ」に代表される燃料電池自動車などで、世界トップクラスの技術を有しています。

そして、豪州はブルー及びグリーン水素の両方を大量に作れる豊富な天然資源と広大な国土を持っており、世界屈指の水素輸出大国となるポテンシャルを持っています。

水素を真に脱炭素社会のエネルギーの要とするためには、日豪で撒いた水素サプライチェーンの種を、同様に価値観を共有し、また高い技術を持つ米国、そしてエネルギー需要が旺盛な ASEAN 諸国を加えることで、確固とした「アジア太平洋水素サプライチェーン」とも呼べる巨大な経済圏へと育てて行くことが重要です。

この未来像を実現する重要な一歩である日豪の協力で立ち上げた HESC (Hydrogen Energy Supply Chain) プロジェクトは、今後の躍進に期待を抱くに余りある成功を収めつつあります。その象徴的な実証事業として、運搬に高度な技術が求められる液化水素の世界初の運搬船「すいそふろんていあ」が、2月25日に無事日豪を往復したところです。この HESC をきっかけとし、日豪が世界に先駆けて、国際水素サプライチェーンを構築できると確信しています。

政策と技術を社会に着実に実装していくためには、水素にまつわるルールメイキングも平行して進めて行くことが重要です。HESC で培った技術が今後の世界標準となるべく日豪で協力していくのはもちろんのこと、水素が製造されて手元に届くまでの透明なカーボンフットプリントの整備

等、国際貿易における透明かつ公正なガバナンスの確保に向けたルールメイキングや、エネルギーの途絶を防ぐ備蓄のメカニズムについても、日豪で世界をリードしていきたいと考えています。

(締めの挨拶)

日豪の脱炭素化に向けた協力は水素に留まりません。自由と民主主義、人権や法の支配といった価値を共有するパートナーとして、現実的なエネルギー転換のための様々な課題に共に取り組んでいきたいと考えます。

最後になりますが、本セミナーで得られた知見が、今年 6 月に開催予定の「クリーンエネルギーサプライチェーンフォーラム」での議論にも結びつくことを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

(了)